

「平成の大合併」への評価

全国町村会長

山本 文男氏



一沢田石洋史撮影

やまもと・ふみお 71年から福岡県添田町町長(10期目)。99年から全国町村会会長。総務省の地方制度調査会委員を務める。83歳。

全国市長会長

森 民夫氏



二小出洋平撮影

もり・たみお 旧建設省地域住宅計画官などを経て、99年より新潟県長岡市長(現在3期目)。今年6月から全国市長会長。60歳。

市町村合併推進のため、99年に始まった「平成の大合併」が10年3月末で打ち切られる。自治体の基盤強化につながった半面、行政サービスの低下を指摘する声もある。

論 壇

平成の大合併
99年の旧合併特例法改正で合併市町村への財政優遇措置が盛り込まれ、合併は一気に加速した。現在の新合併特例法は10年3月末が期限となっており、99年3月に3232あった市町村数は10年3月には1758まで減る見込み。

独自色出せば共存共栄

「平成の大合併」への評価はまだ早い。ただ、住民の自由度が増したのは大きな特徴だ。行政サービスのきめ細かさやなくなったという意見があるが、裏返せば行政への依存心が低くなったとも言える。長岡市と合併した町村では、住民の自由な活動まで行政が担うのが当たり前、住民活動は行政の下請け、との意識があった。NPOやボランティアが首長に遠慮したり、斬新なものは「生意気だ」と言われた。住民自治は「自由勝手」が原則。行政への依存は、合併によって断ち切ることができる。それで住民の意識も変わると考え、長岡市では地域

「平成の大合併」が始まる前、全国に2562町村あったが、現在は992に減った。国は合併により広域的な街づくりが進み、旧町村のイメージがアップし、行政サービスが向上すると言ったが、うそですね。合併後、中心部は栄えても周辺部が衰退し、行政と住民の距離は離れ

国は地方を守る姿勢で

「平成の大合併」が始まる前、全国に2562町村あったが、現在は992に減った。国は合併により広域的な街づくりが進み、旧町村のイメージがアップし、行政サービスが向上すると言ったが、うそですね。合併後、中心部は栄えても周辺部が衰退し、行政と住民の距離は離れ

コミュニケーションの育成に力を入れてきた。「自由によってほしい」と言い続けた結果、「住民自治」「市民協働」という意識が浸透してきた。長岡市はNHKの大河ドラマ「天地人」の舞台。ブームを盛り上げようと旧合併町村の観光協会にアイデアを求めても、最初は行政頼みで動

事にし、誇りを持つことから始まるからだ。07年の新潟県中越沖地震の時、東京電力柏崎刈羽原発の放射能漏れ事故で、合併した旧寺泊町が「汚染された」と風評被害を受けた。そこで、旧山古志村の有名な闘牛の牛を海で泳がせたところ、被害が回復した。歴史や伝統を大事にすることが、合併後に結果を出した例の一つだ。合併は、言葉は悪いが、たかが行政が一緒になるだけだ。人間の生活は昔と違って、それだけで決まったりしていない。私はよく、論議の「君子は和して同ぜず」(優れた人は人と仲良くつきあうが安易に妥協はしない)を引用するが、合併した市町村が独自色を出すことで調和が生まれ、共存共栄できると実感している。